

ほろゆきん

305 スポンジ

包括支援センターさん



大崎短歌会

兼題「自由」

賜わりし長寿祝いの銀杯を
見すれば夫の遺影「ちと」笑う
吾が干せるビニル袋の水滴に
夕焼け色の安らぎ宿る
乳房に届かぬ位置に繋がれて
声からし泣く乳離れの牛
秋長夜睡魔誘われ本何処
静静照らすみ空の光
何虫か姿見えねどジージーと
昼夜分かつたず鳴く秋の虫
大隅の隼人の郷なぜ侵す
ないの怨んよコロナん愚者

穂園芳江
山下海征
本後淑子
井元かず子
坂元つる子
美吉安仁

唄ひ継ぐ「花はどこへと行った」問ふ
窓辺に秋桜少女に笑みを
馬場みさ

薩摩郷句

兼題「水」

一晩で 郷中を飲んだ 鉄砲水
(唱) 水じゃ恐ろしち 教かせらえつ
水じゃ我が家 有っじ生焼酎を 飲ませ言つ
(唱) あいよ焼酎やち ふ卑し爺様
一捻い まこち有難て 水が出つ
(唱) 昔す思えば 本当ち極楽

上村牛歩
上窪小絵
遠矢耐多

飯が固て 水が足らんち 菌の悪い爺
(唱) 焼き飯しなけつ はいどうぞ
西ノ園ひらり

何言てん 大崎の水が 日本一
(唱) 本当ち旨まか 最高じやらい
二見愚楽満

水浴びい すっぽんぼんで 幼児は大騒動
(唱) 怪我をすんなち 見張いの爺婆
藤元鬼瓦

冷水で 昨夜ん大酔漢あ 正気が戻つ
(唱) 夢か現か あー目が覚めた
北村虎王

良か縁に 方角が悪いち 水ずばせつ
(唱) 婆が出つ来て 縁談しやこじれつ
諸木小春

私ゆ見つ 水腹じゃちち 宅ん亭主
(唱) 脂じゃつどち 威張つちよい女房
長重リリー

体で良ち 遠い所け水ずば 買け走つ
(唱) 大崎の水じゃ やっせもはんか
満石うらら

鍛取ゆしつ 疲れ馬んごつ 水ずば飲つ
(唱) こげんも水が 旨めちゆを知つ
諸木美舟